



一般質問

9月定例会の一般質問は、9月28日から行われました。15人の議員が質疑・質問を行い、活発な論議が行われました。

用語解説

- 1 小児がんなどの命に関わる病気が、重い障害のある子どもとその家族が、専門知識を持った看護師などのサポートを受けながら過ごすことができる施設。(法令などに基づき施設の定義はない)
- 2 SAITAMAロボティクスセンター(仮称) 農業大学跡地周辺地域に、ロボット開発を支援するための実証フィールド「ロボット開発支援フィールド(仮称)」と拠点施設「ロボット開発イノベーションセンター(仮称)」を整備予定。この実証フィールドと拠点施設の総称。
- 3 オープンイノベーション 新技術・新製品の開発に際して、組織の枠組みを越え、広く知識、技術の結集を図ること。
- 4 ロボティクスネットワーク SAITAMAロボティクスセンター(仮称)を拠点にロボット開発に関する多様な主体が集まり、協働して社会的課題解決に資するロボットの開発および社会実装を促進し、県内産業の振興と経済の発展を図ることを目的とした組織。
- 5 洗沢栄一創業プロジェクト 新産業の創出や地域経済の活性化を促進するため「洗沢栄一創業プロジェクト」と題し、日本経済の発展に大きく貢献した洗沢翁の理念を受け継ぎ、起業家や起業希望者、ベンチャー企業を支援するプロジェクト。
- 6 埼玉版スーパー・シティプロジェクト 埼玉版スーパーシティプロジェクトの3つの要素を兼ね備えた持続可能なまちづくりを県が支援するプロジェクト。
- 7 埼玉郷土芸能サポーター制度 埼玉県の郷土芸能を企業等と行政が一体となって未来へ受け継ごうという社会的気運を醸成することを目的として、郷土芸能の保存・継承に協力していただける県内の企業や団体へ「埼玉郷土芸能サポーター」として登録し、官民共同で郷土芸能を守っていく取り組み。
- 8 eスポーツ [エレクトロニック・スポーツ]の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピュータゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。

意見書・決議

- 建設業における労働環境の整備を求める意見書
 - 物流の2024年問題への対応を求める意見書
 - 建設アスベスト被害者の救済を求める意見書
 - 公立教員の処遇改善を求める意見書
 - 信号灯器のLED化の早期実現を求める意見書
 - 高病原性鳥インフルエンザ対策を求める意見書
 - ブラッドパッチ療法に対する適正診療上の評価等を求める意見書
 - 認知症の新薬が必要な人に届く体制の整備を求める意見書
 - オンライン本会議の本格実現を求める意見書
- 北朝鮮による弾道ミサイル技術を使用した衛星打ち上げに断固抗議し、制裁措置の厳格な履行等を求める決議

県議会広報ラジオ番組 FM NACK5 GOGOMONZ(ゴゴモンズ) 埼玉県議会におじゃまして！スペシャル

議長や主要会派議員が、落語家の三遊亭鬼丸さん・タレントの横田かおりさんと県議会や議員の仕事についてトークを展開！プレゼントが当たる企画もあります！

放送予定日 11月27日(月)～11月30日(木) 4日間 各日 14:06～14:21 15分間 FM NACK5[GOGOMONZ]内で放送!

県議会広報テレビ番組 テレ玉(地デジ3チャンネル) 「こんにちは県議会です」

県議会に関するさまざまな情報を分かりやすく紹介しています。番組の最後にはプレゼントコーナーもあります。ぜひご覧ください！

放送予定日 11月26日(日) 10:00～10:30 11月27日(月) 10:00～10:30

秋のSNS フォローキャンペーンを開催中!

現在、埼玉県議会公式X(旧 Twitter)では素敵なプレゼントが当たるフォローキャンペーンを開催中！ぜひご参加ください。

応募方法 ①県議会公式X(旧 Twitter) (@saitamakingai)をフォロー ②フォローキャンペーンのポストをリポストしてくださいね！

期間：11月30日(木) 23:59まで

ぜひ、ご覧ください!!

本会議の模様はインターネット中継でご覧いただけます。左の二次元コードからアクセスできます。

教育

魅力ある県立高等学校に向けて

熊本県では、自治体と県、民間企業が連携し魅力ある学科を新設したが、本県でも同様な仕組みができないか。魅力や特色のある高校を増やすため普通科改革をどう考えるか。また、工業高校が魅力ある高校となるため、生徒が最新技術に触れる工夫はできないか。

地元自治体からの要望があれれば、その意見も丁寧に伺いながら、魅力ある県立高校づくりを進めていく。普通科改革は高校進学希望者の選択肢が広がる効果が期待できる。工業高校は、生徒が企業等で先端機器を活用した実習ができるよう取り組んでいく。

県立中高一貫校設置拡大について

県立中高一貫校の伊奈学園の人気は高いが、遠いので通えないという声もある。身近な地域で希望に合った公立校を受けるとは子どもたちの郷土愛を育み、本県の将来の大きな財産になる。子どもや保護者のニーズを把握し、県立中高一貫校設置拡大の検討を速やかに進めたい。

伊奈学園中学の生徒へのアンケート調査や、他の一貫校の視察などを行い、新たな中高一貫校の設置を検討を進めている。進学を考慮する児童や保護者の中高一貫教育へのニーズ把握を行うとともに、特色ある教育課程や通学の利便性に配慮した配置の在り方などを検討していく。

交通

免許返納後の移動手段に象徴される交通弱者への対応をどうするか

急速に高齢化が進む本県は、免許返納後の交通弱者への対応が課題。高齢者の使いやすさを考えた交通サービスの実質的充実に向け、問題意識を市町村と共有することや、補助制度の使い勝手がポイントとなると思うが、県として市町村とともにどのように取り組んでいくのか。

市町村の地域公共交通研究会のほか、県主催の研修会などを通じて問題意識の共有を図ってきた。引き続きあらゆる機会を通じて、市町村と意識共有を図り、埼玉版スーパー・シティプロジェクト(※6)の補助制度との連携を一層強化しつつ、市町村を積極的に支援していく。

文化

伝統芸能の魅力・継承

県の魅力を高める地域活性化につながる伝統芸能の魅力をどう考えるか。また、伝統芸能の魅力の発揮にどう取り組むか。さらに今後、担い手確保のため伝統芸能活動に参加しやすい環境づくりが必要だが、そうした環境の実現に向けてどのように取り組むのか。

伝統芸能は優雅で、力強さなどが魅力。魅力発揮のため、彩の国さいたま芸術劇場を活用した事業などを実施。また埼玉県和文文化フェスタなど県民が伝統芸能に触れ取り組みや埼玉郷土芸能サポーター制度(※7)により伝統芸能活動に参加しやすい環境づくりを推進していく。

スポーツ

eスポーツ(※8)の推進による県の魅力向上を

民間企業によるeスポーツ振興が進んでいるが、県によるeスポーツ振興の意義をどう捉え推進するか。またeスポーツは、毎年国際大会が開催され経済効果をもたらすイベントになっている。県の魅力発信やマーケティング効果も期待できる国際大会の誘致を行うべきと考える。

eスポーツは行政が活用できる多様な可能性があり、県は可能性を証明し、旗振り役となって普及・裾野拡大を図っていく。将来、県内で国際大会が開かれるよう県民のeスポーツに対する理解や気運の高まり、関係者とのネットワークづくりなど大会開催の素地を作っていく。

農業

小規模農家への支援について

農業の担い手不足と高齢化の問題は、いまだ改善の兆しがない。特に農家の多くを占める小規模農家への対策が重要。小規模農家の子弟が定年後に就業できるような働きやすさが重要と考えられるがどうか。また支援策の拡充に向けて国への働きかけが必要と思うがいかがか。

就業を希望する農家子弟に対し農業大学校での技術習得を勧められている。また定年後直ちに就業を希望する者に栽培技術資料の提供や経営計画策定支援、補助事業や制度資金の紹介を実施。今後定年度の農家子弟の就業に向けた課題を整理し、分析し国へ必要な支援策の拡充を要望する。

花き産産支援の促進について

本県花き産出額は全国6位。埼玉は花き産産を県民に知ってもらうため、若年層から幅広い世代に認知を広げるプロモーションを行う考えはあるか。また2027年開催の国際園芸博覧会は本県の花きアピールの絶好のチャンス。これをどう生かし、県民にどう周知するか。

若者にSNS投稿を促すため多様な業種と連携しプロモーションを展開する。さらに記念日に花を贈るキャンペーンなども実施し花きの消費拡大につなげる。また博覧会への出展は、花植木の消費拡大につながるため前向きに検討する。県民への周知は広報媒体をフル活用する。

産業

多様化する女性の働き方支援について

女性起業家を生み出すためどのような支援や連携を行っているか。また、資金調達が必要な女性にどのような支援をしているか。同一労働同一賃金制度推進のため中小企業への支援が必要と考えられるが県の取り組みをどう考えるか。非正規雇用の女性に対する処遇改善支援についてどう考えるか。

セミナーでは個人や企業を連携し開発できる施設を整備。セミナーや研究会などを開催し、対話の機会を創出することでオープンイノベーションを生み出す。今後は、県内外でネットワークを構築し商談も開催。また、洗沢栄一創業プロジェクトと連携を図り強みを生かしていく。

災害対策

動物と共生する社会の実現に向けて

災害時動物救護ボランティアの増員や、動物救護活動が必要とする市町村との円滑な連携体制の構築といった課題をどう取り組むか。また市町村においてペット同室避難所開設に向けて認識を高めるため、県策定のペット同行避難ガイドラインの掲載、周知について所見を伺う。

ボランティアはイベントなどを通じ増員に取り組み。市町村とはボランティア派遣の要否など連絡票による情報共有を開始。今後チャット活用を視野に連携体制を構築する。ペット同行避難の定着に次ぐステップとして同室避難所開設の働き掛けがガイドラインへの掲載を検討する。

危機管理

県内にある重要インフラをサイバテロから守る取組について

サイバテロは、社会の重要な基盤を機能不全に陥れる行為で、県民生活に大きな支障をきたすことになる。巧妙化するサイバテロ攻撃の被害は増え続け、インフラ業界でもサイバテロのリスクが高まっている。県内の重要インフラに対するサイバテロ対策について伺う。

重要インフラ事業者と埼玉県サイバテロ対策協議会を設立し、セミナーを開催するなど協力体制を構築。また、事業者を個別訪問しサイバテロ空間の脅威情報や通信機器の脆弱性に関する情報を提供。さらにサイバテロ攻撃を想定した共同対処訓練を実施し、被害の防止を図っていく。

保健・医療

子育て支援について

知事2期目の公約や就任記者会見などで、子どもへの医療費助成の対象を拡大していく考えが示された。対象拡大を求めてきた、これまでの県議会での質問を踏まえ、改めて子ども医療費助成制度の対象拡大について所見を伺う。また、対象年齢をどう拡大するか考えを伺う。

各市町村の子育て支援の拡充を前提とし、乳幼児医療費支給事業の対象年齢引き上げと所得制限撤廃を実施したい。通院医療費が10歳を超えるると少なくなるため、通院は小学校3年生まで、入院は全市町村が助成対象としている中学校3年生まで拡大する方向で進めたい。

小児慢性特定疾病の医療費助成を受け、悪性新生物を治療中の児童は、令和4年度末時点で1007人。病気の重さや抱える子どもの病状は重要。国の動きも注視しつつ、子どもホスピスを含めさらなる支援を研究したい。開設ニーズがあれば、部局横断による支援策を検討する。

県内に生命を脅かす病気を抱える子どもも、どれくらいいるのか。誰一人取り残されない埼玉を目指す知事。子どもホスピスに対する所見を伺う。また、子どもホスピス開設の動きが出てくれば、部局をまたぐ連携体制についても早い段階から準備を行うべきと考えるがいかがか。

福祉

保育士人材確保に向けた処遇改善について

保育士の人材不足が顕著な市町村は、すでに人材確保を図っている。知事の2期目にあたり、今一度保育士の人材確保に向けた処遇改善のため、県としても賞金を上乗せし市町村の後押しをする形で支援することについて知事の所見を伺う。

最善の処遇改善は国の公定価格の見直し。県は直接支援が届く就職準備金交付や奨学金返済事業などを実施。給与の上乗せは単年度に実施したもの確認できてもベースアップをその分押し下げることの確認ができない。そこをどう確認できるかを直接補助の効果と合わせ検証する。

子ども食堂の支援について

知事は子ども食堂など子どもが居場所を800カ所以上設置するとしているが、達成にはさらなる工夫と支援が必要。運営スタッフの育成・支援、活動場所の確保、活動費補助に取り組みを促す。利用者が必要な支援に結び付けるアウトリーチ機能の強化なども必要と考えるがいかがか。

セミナーなどでの運営スタッフの育成、企業とのマッチングによる活動場所の確保支援、地域内の相互扶助立ち上げ・強化への助成などを行っている。アドバイザー派遣などによるアウトリーチ機能強化も図りながら目標に向けしっかりと取り組んでいく。